1989年5月8日第三種郵便物認可　2012年4月15日不屈　（毎月15日発行）No.454

「震災復興・原発なくせ３・11行動in東京」に8000人　（井の頭公園）

春 到来
5月８日国会請願成功に全力を!!

４月新年度を迎え本来入学・進学、卒業・就職を始め、国民全体が新しい希望に胸を躍らせる時ですが、率直に「おめでとう」と言えない現状です。

東日本大震災や東京電力福島原発事故に対する政府・電力資本の対応の遅れ、野田内閣の「税と社会保障の一体改革」の名による消費税大増税と後期高齢者保険料の値上げや年金の引き下げなど社会保障制度の大改悪、ＴＰＰへの参加、沖縄普天間基地問題など国民の政治不信と怒りの声は広がるばかりです。

また、橋下大阪市長の憲法違反の「基本２条例」や市職員に対する「思想調査」をはじめ、民主、自民両党を中心の超党派の靖国派議員の新たな動きも軽視出来ません。

こうした中、５月８日国会請願行動に向けて署名運動が全国で急速に展開されています。すでに山形県本部は３月23日１万１千筆の自主目標を突破しました。各都道府県本部・支部が目標突破へ全力を上げて奮闘するとともに、これまでの教訓から地元議員の事前の訪問、話し合いを強め一人でも多く紹介議員を広げましょう。

不屈

No.454
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟
編集発行人針谷宏一

〒113-0034　東京都文京区湯島２－４－４
平和と労働センター・全労連会館
電話　03(5842)6461
FAX　03(5842)6462
http://www7.plala.or.jp/tian

頒価　50円

主な記事

●署名活動と会員拡大へ全力―各地の取り組み……2
●私も一言／映画監督・山本洋子……3
●青年部全国交流集会（続報）……4
●顕彰碑／「五日市憲法草案記念碑」……5
●時の焦点／「教育・職員基本条例強行可決」……5
●抵抗の群像／岩手県　高橋テミ……6
●同盟文芸／　短歌・俳句・川柳……7

1989年5月8日第三種郵便物認可　2012年4月15日不屈　（毎月15日発行）No.454

署名総達成へ全国が心ひとつに

豪雪ついて署名目標達成

山形県

山形県同盟は今年度署名目標を全国に先駆けて達成し、さらに超過達成をめざしています。個人目標は11000筆に対して11063筆と100・6%、団体署名401団体（達成率80・2%）、会員拡大では目標に後8名まで迫っています。

昨年、市議会で全員一致で意見書採択した南陽市職員組合（連合加盟）では支部の申し入れに応え、550筆と組合員数を上回る署名が寄せられるなどの成果をあげています。

こうした成果を受けて県本部は、すべての支部が自主目標を達成すること（3月末現在11支部中6支部が達成）と団体署名達成にも力を注いでいます。4月20日の県本部理事会では会員目標も超過達成して国会請願に臨もうと奮闘中です。

「一人20筆」を合言葉に

秋田県

秋田県の署名到達は3月10日現在で、団体署名が209筆、個人署名が2587筆で目標に大きく遅れています。役員の病気による秋田支部体制の交替、支部事務所体制の崩れなどが大きな要因。

2月の県本部常任理事会は、この遅れの克服のため、支部役員会（8支部）を開き、自主目標達成への計画を具体化し、「会員20筆」を合言葉に会員に依拠した署名活動を呼びかけ、「活動推進ニュース」で各支部の署名・会員拡大の具体化を交流しました。その後、6支部が署名目標達成の計画を明確にし、取り組みを強めつつあります。

県本部は、4月11日、常任理事会を開き、国会請願までの集中的な取り組み、国会議員訪問、5月29日の県本部定期大会までに500名会員拡大実現へ意思統一をはかります。17日には第6回女性会員代表者会議を開き、『全国女性交流集会報告集』100冊普及の成果を生かし、女性の中での活動強化と女性会員拡大を図ることになっています。

「組織強化月間」設け、目標達成に全力

長野県

長野県本部では、3月を「組織強化月間」に設定し、中央本部針谷事務局長の激励よびかけに応えて停滞している組織強化を正面に据えて会員拡大と支部組織再建に全力をあげ、合わせて署名活動の総達成を目指しています。

上小支部では2人一組で訪問、すでに8人の会員を拡大しました。

（3ページへつづく）

国会請願日は5月8日（火）

受付　午前10時より

開会　11時

集合　衆議院第一議員会館

水車

「3・11」が巡り来た。死者1万5854人、行方不明者3155人（3・11警察庁）。津波で家を失った人、東電原発事故で避難を余儀なくされた人等、今日なお34万人を超す人々が仮設住宅等で生活している。▼遅々として進まぬ政府の対策に対し、ボランテイアの音楽家たちの歌声と、数千億円に達した市民の救援金は人々に今後を生きる希望を与えた▼またこの日は震災からの復興、原発なくせの願いを込めた行動が北海道から九州まで20数県以上でとりくまれ、まさに日本列島は熱気につつまれた。なかでも福島、郡山のオール福島規模での「原発いらない！福島県民大集会」には全国各地から1万6千人が参加、母親・農民・高校生らが福島の痛切な叫び声を挙げた▼国会は、脱原発を訴える市民ら1万人の「人間の鎖」で取り囲まれた。草の根からのこのうねりにマスコミも注目せざるをえなくなった。国民本位の政治運動を前へ。

（仁）

（2ページからつづく）

国賠署名は3月だけで4400筆伸ばし1万筆に近づき目標達成目指しています。会費・募金でも前進し始めています。

「月間」では地域支部の立て直しも課題で「要請があればどこにでも飛んでいく」という県本部の方針に応えて、諏訪、佐久、長水、の各支部で役員会を開き、世代交代や立て直しで前進を始めています。（長野県本部・柄澤義郎）

全支部一丸になって署名総達成へ全力

和歌山県

和歌山県本部では、署名連動の立ち遅れを克服するために全支部に向けて「FAXニュース」を発行。「再度全会員に声かけを」「集団討議で働き手を増やそう。組を組んで行動に立ちあがろう」「署名は歩け、歩け」が鉄則と激励の呼びかけを行い目標達成に全力をあげています。

（福岡県本部・緒方順年）

福岡・行橋市議会が意見書採択

福岡県行橋市議会は、3月議会で治安維持法犠牲者への国家賠償を求める意見書を賛成多数で採択。京筑支部が請願し、日本共産党の大川議員が賛成討論を行いました。大川議員の日常的な活動への信頼関係もあり、他党派からも多くの賛同者が出て、採択にこぎつけたものです。

（福岡県本部・緒方順年）

群馬県本部を再建「不屈」再刊！　署名次々

役員の病気等により活動が休止状態の同盟群馬県本部は、この間、伊勢崎多喜二奪還事件（1931年9月6日）の掘り起こしと4回にわたる多喜二祭の積み重ねの中で、県本部を再建。県本部では中央「不屈」の配布と会費集金とあわせて署名の呼びかけを行い、次々と署名の入った封筒が寄せられています。この間、新会員5人と1団体を拡大しました。また、県版「不屈」の再刊にこぎつけました。

大阪府本部が結成30周年記念のつどいに100人

3月25日治安維持法国賠同盟大阪府本部の「結成30周年記念のつどい」が開かれました。「つどい」は第一部「治安維持法を通して考える過去、現在、未来」と題するシンポジウムとギターコンサート、第二部レセプションの構成。参加者約100人が多彩な発言に聞き入り、歴史認識を正し、未来を開く新たな決意を固めあいました。

私も一言

時代をつなげつづけて

山本洋子

『人間らしく生きることを求め、青春を駆けぬけた少女たちは、今日も時代を走っている。世直しへの思いを片手に、未来への展望を片手ににぎりしめて』

映画「明日へ紡ぎつづけて」のラストシーンをこんな風に締めくくった。1950、60年代。紡績女工と呼ばれた少女たちの、社会にめざめ、仲間をつくり、資本の側の理不尽に、決然と声をあげ、学び、斗い挑んでいった姿は、すがすがしくもあり、楽天性にあふれ、どんな弾圧にもひるまなかった。そのひとみは、今も、キラキラと輝いている。

私にとっては、治安維持法下、弾圧された人々の支援にあたった、日本国民救援会の姿を描いた映画「嵐に抗して―日本国民救援会の50年―」の次の世代を描く映画づくりだった。彼女達のひとみの輝きの中に、治安維持法下の戦いの姿が、しっかりと映しだされていた。

彼女達、そして我々みんながえがく未来を生みだすためにも国家賠償法の成立が必要だと思っている。

（ドキュメント映画「明日へ紡ぎつづけて」監督）

女性部や奈良の先達に学んで
青年部全国交流集会（続報）

前号に引き続き各県発言と参加者の決意を掲載します。

静岡・青年への働きかけにたじろぎがあった。青年自らの要求として取り組もうと考えている。

青森・40歳代までの会員が20人もいる。再結集のきっかけに。

岡山・若い市議が入会、奈良の経験を生かしていきたい。

埼玉・戦争展などに若い世代が参加、関心が高いこの層に働きかける。

東京・新しい支部結成が進み青年との接点も生まれている。女性部の持続的活動が同盟を支える力になっている教訓を青年部にも生かせる。世界のなかの人権問題をもっと前面に出せば青年の関心にヒットできる。

京都・会員1000名をめざす、このなかに青年層を意識的に拡大したい。

神奈川・民青会館のなかに同盟の事務所を移し活動を始めている。青年の置かれている現状は大変、したがって運動も困難を抱えている。しかし関心のある問題ではメル友で繋がり始めている。奈良の活動開始は「目からうろこ」だ。

大阪・青年会員を意識的に役員にしたが会議にも出られないほど忙しい、青年が青年に働きかけるきっかけをつくることが大切。

岩手・啄木も多喜二も知らない青年たちが震災後入会してきている。ブロック会議までに青年部作りたい。また、「全国の青年への訴え」をつくって欲しいなどの要望も出されました。

最後に柳河瀬会長は、①青年が歴史的な岐路にたち歴史認識を正すことに関心を持ちはじめている②青年部問題を後継者づくりだけからみない③青年の関心のある問題から出発し課題のみを押しつけない④奈良の経験に学び、6月の中央理事会までに全国で青年部を結成して参加しよう、と呼びかけました。

展望の湧く会議

岡山・石倉新也

同盟に青年部をつくることの困難さをどう克服したのかが聞ける会議という認識で参加したが、やれるのではないか、いややるべきだという展望の湧く会議でした。岡山でも20、30歳代の同盟員は10人以上いる中で、これまで「青年部活動」という発想がなかったこと自体を反省しています。組織であればやはり青年の独自性をだせる青年部であってほしい。奈良では3人で結成して、活動は、「特高月報」を読んで、当時の弾圧の凄まじさに怒りを覚え、青年自身が青年を拡大していることを聞いて、安心感というか、希望が持てました。

岡山県本部でも青年会員の核になれる人に奈良の青年部活動を知ってもらい、そこから始めたい。運動は1人の百歩でなく百人の一歩が大切だという認識できた会議でした。

「春を呼ぶつどい」

東京・女性部

東京都本部と女性部主催の「春を呼ぶつどい」は、3月24日（土）午後、平和と労働センターで開かれ40名が参加しました。

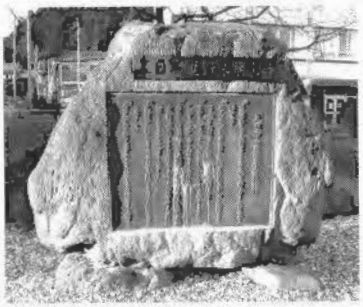
第一部・犠牲者水谷安子さんの証言と、高部優子さんの「鬼退治をしたくない桃太郎・紛争解決アニメを創作して」の上映とお話、第二部は鶴見笛子さんのアコーディオン独奏、「みんなで歌いましょう」といずれも春をテーマに、思い切り春を呼ぶ歌声を響かせました。友誼組織の榎本婦団連事務局長、石黒婦人民主クラブ副会長の連帯の挨拶を受け、他に東京母親連絡会、紺野君子神奈川県副会長、森田君子埼玉県副会長など関東ブロックの連帯を心強く思いました。

水谷安子さん（99歳）の治安維持法の人権無視の犠牲になった様子を淡々と語られた中にも、揺らぐ事のない精神を直にお聞きして、参加者に感動と活動の重要さと決意を与えられた貴重なお話でした。

（四津谷伸子・都本部女性部長）

顕彰碑探訪

現憲法にその精神が生きる「五日市憲法草案記念碑」



昨年9月、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟関東のみなさんが「五日市憲法草案記念碑」を訪ねてくださいました。この記念碑は、明治初期の自由民権運動の高まりの中で千葉卓三郎起草の私擬憲法・「五日市憲法草案」を顕彰するために作られたものです。（発見後11年目の1979年）

この五日市憲法草案は、「民権の尊重に特別の配慮をしていることは注目すべきであって、他の私擬憲法に全く類例をみない」（稲田正次氏）と評価されました。

あきる野市五日市は、江戸百万の都市を支える薪炭や木材を供給する市場町として発展しました。明治初期には新しい日本のあり方をめぐっての学習運動が活発に行われていました。この運動の中心で活動したのが五日市の小学校教員の千葉卓三郎や深沢村名主家に生をうけた深澤権八らです。卓三郎や権八は、当時翻訳されていた西洋の思想家の始どの著書、外国の憲法などを広く学んでいました。これらの学習運動と五日市憲法草案の起草は、「明治初期に草の根の民主主義が日本で生まれていた」と世界的に評価されました。

こうして、今の憲法に「勝るとも劣らない」といわれる人権規定、教育権、地方自治、国民主権などを明記した「五日市憲法草案」が創り上げられました。

明治初期の私擬憲法の自由や民主主義の考えが今の憲法に生かされました。

（元あきる野市議・鈴木富雄）

時の焦点

大阪府議会が「教育・職員基本条例、府立学校条例」強行可決

3月23日、大阪府議会は「府教育行政基本条例」「府立学校条例」「職員基本条例」を強行可決しました。大阪市議会では「市職員基本条例」について結論を持ち越しましたが予断を許しません。

3案は教育への首長の介入を許し、職員や教職員への厳しい処分基準を設定するなど違憲・違法性が強く、各界から強く批判されています。

同盟大阪府本部は昨年9月3日理事会決議で、「憲法と地方自治法、教育の条理を蹂躙する『教育基本条例案』『職員基本条例案』の企てに反対し、ただちに撤回」を求め、「政治に必要なのは独裁者」と豪語する橋下・維新の会を糾弾してきました。

大阪市長に就任した橋下氏は2月9日、市職員に「処分」をチラつかせて「思想調査」を迫りました。これは職員の「思想を探る」ばかりか、組合加入や演説会に誘った一般市民についてまで回答を強要する違憲・違法なもの。府本部理事会は3月3日、再度「違憲・違法な『思想調査』の即時中止・廃棄」と「教育・職員2条例の廃案」を要求、「『君が代』条例強行採決の暴挙に抗議」する決議を採択しました。

同決議は「橋下市長が弁護士の資格を有しながら、治安維持法的発想に基づく『思想調査』に踏み込んだことを強く危惧する」とし、「こんなことが許されるなら、戦前猛威を振るった暗黒政治への回帰の道が容易に開かれる」と警鐘を鳴らし、底流に「今日の政治への諦め、失望、閉塞感」があり、背景に「橋下・維新の会に対するジャーナリズム・マスコミの過熱報道」があると指摘しています。

決議は「大阪は政治の右傾化・独裁政治と闘う最前線、激しいせめぎ合いの真っ只中にある」、「大阪維新の会の企みと全国的な波及の阻止」、「治安維持法体制への回帰を許さず、21世紀を平和と人権の世紀にしていくために闘う決意」を表明しています。

（大阪・有川功、3月24日記）

抵抗の群像

赤色救援会や共産党員の活動を支えた看護婦　高橋テミ

昭和4（1929）年の4・16大弾圧のあと、横浜・横須賀で赤色救援会や共産党員の活動を支えた人に、看護婦の高橋テミさんがいた。

高橋テミは明治32年、岩手県和賀郡岩崎村（現北上市）に生まれ、14歳で嫁に出され、20歳で離婚し、それから看護婦の資格を取って自立した女性である。

1990年に90歳で亡くなったが、82歳の誕生日に「大正の終わりから昭和9年までのノートから」という手記をまとめ、戦前の活動のことを書き残している。

横浜では、東京の郵便局員を自称する青年が看護婦の宿舎をたびたび訪ねてきて『戦旗』や多喜二の『蟹工船』、河上肇の『第二貧乏物語』などを置いて行った。これが高橋テミの学習の始まりだった。

演説会は弁士中止の連続

横須賀では高橋テミの住まいがアジトになっていた。赤色救援会のニュースがつくられ、交互に郵便局を変えながら全国に発送するのを手伝ったり、思想犯の裁判の傍聴を頼まれたこともあった。

多喜二の演説会にも行った。警官が入口の両側にぎっしりと並んだ間を会場に入ったが、弁士中止の連続で、結局、多喜二は出席できなかったという。

そうした中で、共産党に関係している人たちは、お互い姓名を名乗らないので、ある活動家のことを、高橋テミたちは「東京のおじさん」と呼んでいた。働く者の社会を実現しようと努力しようとする人たちの顔はみな明るく優しいが、おじさんもその一人だった。

ある時は朝から喫茶店での連絡がつづき、10杯位コーヒーを飲んだのでお腹がぶかぶかで気持ちを悪くしたり、ある時はお腹が痛いというので薬をやると、実は何も食べていないからだったので、大急ぎで食事を作ったりもした。

何軒も屋根を伝って逃げる

警官に踏み込まれ、屋根を逃げるおじさんはいろいろな話をしてくれた。会議中に警官に踏み込まれ、何軒も屋根を伝って逃げおうせたこと、満州事変で前線に送られる兵隊の輸送列車に乗り込んで反戦演説をやっている同志もいること、現在日本も世界的なパニックに巻き込まれているから、近いうちに必ず世界的な大戦争が始まるという話もあった。

だが昭和7年3月頃、おおきな弾圧があったらしく、おじさんは急に来なくなった。同じ頃、高橋テミは持病の眼病が治らないので、転地療養のため岩手の生家に戻った。視力が回復してからは黒沢尻（北上市）の病院で働くことになった。

昭和9年夏、横浜の療養所で働く姪とそこに入院している人から手紙が来た。差出人の名は樅山雅彦。初めてわかった「東京のおじさん」の姓名だった。不規則な睡眠、無理な活動で、やっぱり病気になったのだ。腸結核が大部進行しているらしかった。

高橋テミは一瞬でも痛みを忘れるようにとタオルの寝巻と自分の写真と激励の手紙を送った。

数か月経って再び姪から手紙が来た。おじさんに呼ばれて病室に行くと、見舞いに送った寝巻を着ていた。インターナショナルのレコードをかけてくれと云うので、繰り返しかけてやると静かに聞いていたのに、その翌日逝ってしまった、とあった。

高橋テミは、「樅山雅彦君、生前の活動ご苦労様。ゆっくり永眠されよ。身命をかけた君の闘いは必ず強く逞しく発展するでしょう。心ある人々は、あとからあとから、人民解放の闘いに参加されるでしょう」と、ノートに書いた。

（岩手県本部事務局長・牛山靖夫）

同盟文芸

短歌　碓田のぼる選

輝ける九〇年の党史あり核・基地・安保たたかいて
喜寿　福井県　元山　章一郎

「絆」という文字が大賞となりし世にテレビは今日も孤立死を報ず　新潟県　加茂川ハル子

五四碁も設置されいし原発の想定外の事故ぞおそろし　東京都　若林　義文

子と歩けば妻との出逢い思い出す五十年前の焼津の街を　静岡県　江川　佐一

病室に明日飾らむと桃の花買い来しにその朝を夫逝く　新潟県　柳川　月

よき歌が作られたるらし妻の持つ鉛筆さっと動き始める　岐阜県　和田　昌三

「不屈」紙の年賀にいつも名を載せし沖縄の友名無きを案じる　大分県　渡辺　幹生

不意に言う特高に押し入られしを片麻痺の父身体震わし　神奈川県　佐久間真一

志位質問で痛い所を衝かれるや開き直れる総理の答弁　鳥取県　大久保禮吉

嫁ぎし娘昼間受診に付き添って夜は専門ナースとなりぬ　島根県　小玉　信恵

〈選のあとに〉春到来。内に引きこもっていたような私たちの感性も、外に向かって開いていきます。ものの芽ぶきがもつ、みなぎる力を感じながら、今の状況に立ち向かう、歌をこそ、と思わずにはいられません。

俳句　望月たけし選

塞ぐ時代（とき）多喜二は答え梅白し　神奈川県　福岡まもる

肇・清・潤の碑を訪う秋の旅　岡山県　三上　史郎

鶴彬春のつどいの墓の前　岩手県　菅原　文治

春雷や学徒兵士の墓光る　三重県　橋本しげる

年金の話途切れぬ春座敷　兵庫県　岸本　守

〈選者紹介〉望月たけし　1939年生まれ。赤城さかえ、古沢太穂に師事。「道標同人賞」「新俳句人連盟賞」受賞。「しんぶん赤旗」「赤旗日曜版」などの選者歴任。著書に「青騒」「生涯ただひとたびの日に」「水平線」など。現在、新俳句人連盟副会長。

川柳　編集部選

原発のゼロへと向かい旗あげる　岩手県　菅原　安治

大金持貧乏人に金出させ　埼玉県　福家　駿吉

竜馬さん八策泣くと大笑い　神奈川県　山田　良夫

重箱の隅をつついて民絞り　鳥取県　大久保禮吉

第7回平和・連帯の旅
中国　成都・重慶を訪問

第7回を迎える今年の平和・連帯の旅（10月9～14日）は、2008年に起こった成都の四川大地震の被災地を訪ね、復興状況を見学し、被災者の方々と交流します。この地震では死者7万人、行方不明1万8千人にも達し、東日本大震災の5倍の被害規模。被害の大きかった映秀鎮を訪ねます。また、日本軍が1938年から43年にかけて、約200回の無差別爆撃を行った重慶を訪問し、1万人が亡くなったと言われる6・5隧道惨案遺跡を見学。裁判闘争を続ける重慶爆撃対日民間賠償原告団との交流を予定。戦後補償問題で、同盟とも共有できる機会にしたい。

そのほかに世界遺産である古代水利施設の都江堰、大石仏の楽山大仏、大足石刻の見学も予定しています。中国の歴史的文物にも触れながら、現代的課題にしっかりと向き合い、学びと交流のある旅にしたいと思います。

（国際部長・菅野亨一）

1989年5月8日第三種郵便物認可　2012年4月15日不定　（毎月15日発行）No.454

「治安維持法と現代」2012年春季号（4月30日発売）

秘密保全法、定数削減、政局の動向
治安維持法弾圧事件など満載

「治安維持法と現代」№23（2012年4月30日発売予定）には、野田政権の「法案提出が迫る秘密保全法の危険な中身」小林善亮「比例定数削減問題と〝真の政治改革〟」上脇博之をはじめ、「東電福島第一原発過酷事故から一年、いま、問われていること」加藤起一「『日の丸・君が代』訴訟の『成果』と課題」澤藤統一郎、「『慰安婦』問題解決の壁」吉川春子、「大阪府の『教育・職員基本条例案』の危険な狙いと闘い」山口隆など。

同盟運動を国民的運動に発展させるために「歴史認識をただす声を大きくしよう」柳河瀬精。「2012小樽小林多喜二国際シンポを終わって」荻野富士夫、「野呂栄太郎の理論活動の今日的意義」友寄英隆。治安維持法関連では「無謀な戦争やめろと大喝した松本元市郎」谷彌兵衛、「秋田・椿銅山で育った共青初代委員長川合義虎と親友たち」近江谷昭二郎、「二瓶正夫と大阪商大事件」赤城弘、「拷問と栄養失調で獄死した深澤喜一郎を悼む」松永和夫など、政局から治安維持法弾圧、同盟運動、地方議会での意見書採択の経験の論考が満載です。支部学習会にもご活用ください。

定価1000円、ご注文は各都道府県本部へ。

2012小樽 小林多喜二国際シンポジウム

小林多喜二国際シンポジウムが2月21日から3日間、北海道小樽市の多喜二の母校・小樽商科大学創立100周年記念事業の一環として開かれました。今年が5回目、中国・韓国・アメリカ・欧州諸国などから研究者30人、一般参加者も連日80人が参加しました。

21日夜、同市民センターマリンホールで記念講演会が開かれ、400人が参加。山本眞樹学長があいさつ、米シカゴ大学のノーマ・フィルド教授が「小林多喜二を21世紀に考える意味」と題して講演しました。

秋田多喜二展に1600人

全国で最も長い歴史を持つ「秋田多喜二祭」50周年記念・小林多喜二展が3月16日から4日間開催され県内外から1600人が参観しました。会場には、多喜二のデスマスク、愛用のオーバーとコート、非合法時代の文机、「蟹工船」ノート稿はじめこれまでの多喜二展で最大規模の360点余が展示されました。開会式では近江谷昭二郎実行委員長（同盟中央顧問）が「今日の困難な社会状況を打開したいと模索した青年が行き着いたのが『蟹工船』だ。多喜二は日本の誇りだ」と挨拶。参加者は多喜二の生きた姿を示す膨大な資料の展示に熱心に見入りました

京都・山宣追悼墓前祭

戦前、帝国議会で唯一人、治安維持法に真っ向から反対し、主権在民と反戦平和に先駆し、右翼の凶刃に斃れた山本宣治の第83回墓前祭が3月5日、宇治善法墓地で開催され、全国から200人が参列しました。墓前で遺志を継いで前進することを誓いました。

事務局日誌

3月5日　京都・山宣追悼墓前祭
3月8日　国際女性デー中央集会
3月10日　東京山宣を語る会
3月11日　東日本大震災1周年記念集会
3月16日～19日　秋田多喜二展
3月18日　第65回解放運動犠牲者合葬追悼会
3月23日　国際人権活動日本委員会代表者会
3月24日　東京女性部「春の集い」
3月25日　長野「山宣会」総会